多賀城民報

題字は池田和京さんにご揮毫いただきました。

日本共産党
多賀城市議団・編集長柳原清
多賀城市留ケ谷一丁目11番23号
代表（364）3222
FAX（309）3910

CCC社長 講演内容を一部書き換え！

―「図書館は本のレンタル屋」に言い訳―

今は行政の方があちこちから毎日見学にいらしていて、「うちでもやってくれ」「見に来てくれ」と、行列をつくっている状態だ。僕らがやるとコストが下がるというのもある。すべてセルフPOSだし、実際には本のレンタル屋だ。要するに「図書館なんてものはない」と（会場笑）。名前は図書館だが、本のレンタル屋だ。　以前の講演記録

今は行政の方があちこちから毎日見学にいらしていて、「うちでもやってくれ」「見に来てくれ」と、行列をつくっている状態だ。僕らがやるとコストが下がるというのもある。すべてセルフPOSだし（最新のレンタル屋で見慣れた仕組みが取り入れられ、さながら）本のレンタル屋だ。要するに「（ステレオタイプなレンタル屋もないし、）図書館なんてものはない」と。名前は図書館だが、（使われている仕組みの側面で見れば、さながら）本のレンタル屋だ。　書き換えられた講演記録（いずれも「あすか会議2013」のホームページより）

先週の『多賀城民報』で藤原益栄市議が2月25日の一般質問で、昨年の7月6日にCCC社長の増田宗昭氏が「あすか会議２０１３」なる企業家向けの講演で「図書館は本のレンタル屋だ」と発言していたことを問題にしたことをお知らせしましたが、３月４日までにこの講演内容が一部書き換えられていることが明らかになりました。

CCC（カルチャー・コンビニエンス・クラブ＝蔦屋書店の親会社）社長の増田宗昭氏が、図書館について例の発言をしたのは、多賀城市と連携協定を結ぶ5日前の昨年7月6日の「あすか会議２０１３」での講演でした（「あすか会議２０１３」で検索すればネットで見ることができます）。これが3月4日までに一部書き換えられていました。

少なくとも、2月25日まで、増田氏の講演記録は次のようになっていました。

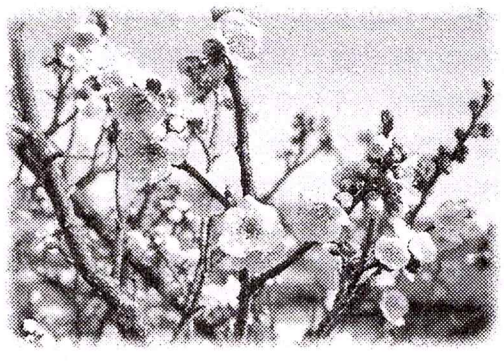
「僕らがやるとコストが下がるというのもある。すべてはセルフPOSだし、実際には本のレンタル屋だ。要するに『図書館なんてものはない』と（会場笑）。名前は図書館だが、本のレンタル屋だ。」（傍線部分は削除した部分です）

それが少なくとも3月4日以後、以下のように書き換えられました。

「僕らがやるとコストが下がるというのもある。すべてはセルフPOSだし（最新のレンタル屋で見慣れた仕組みが取り入れられ、さながら）本のレンタル屋だ。要するに『（ステレオタイプなレンタル屋もないし、）図書館なんてものはない』と。名前は図書館だが、（使われている仕組みの側面で見れば、さながら）本のレンタル屋だ。」（傍線部分は書き加えた部分です）

この書き換えで「（『図書館は本のレンタル屋』発言は）図書館の全体像について言ったのではなく、図書資料の貸し出し機能の側面について話しただけ」と言いたいようです。

しかし、「図書館は無料の貸本屋で良いのか」という批判が従来からあり、それからの脱皮が必要だという議論が主流になっている時に、そういうことを言うことにどういう意味があるというのでしょうか。結局一部書き換えはしても「図書館はレンタル屋で良いんだ」と言っていると理解する意外にありません。



「懸念と否定は違う」に？？？

2011年1月5日に当時の片山総務大臣が記者会見をおこない、行き過ぎた指定管理に懸念を表明し「公共図書館とか、まして学校図書館なんかは、指定管理になじまないと私は思うのです。やはり、きちっと行政がちゃんと直営で、スタッフを配置して運営すべきだと、私なんかは思うんですよ」と述べたことは良く知られています。

これに関してある自民党市議さんが3月4日午後5時近くに行なった議論にびっくり。『広辞苑』まで引いて「懸念と否定は違う」と述べ〈だから公立図書館を指定管理して良いんだ〉と言わんばかりの議論をしていたのです。

『広辞苑』を引くまでもなく懸念と否定の違いは一目瞭然。片山大臣の記者会見について言えば、行き過ぎた指定管理に「懸念」を表明したその中身にこそ注目すべきではないでしょうか。

「懸念は否定じゃないから指定管理してもよい」との議論はとても乱暴すぎ、もう少し丁寧な議論をお願いしたいと思いました。（投稿）

東風城月

各地から梅の便りが届くようになった。梅と言えば野呂栄太郎や小林多喜二を想うことが常だったが、『無医村に花は微笑む』を読み将基面誠（しょうきめんまこと）医師のことも忘れられなくなった▼同医師は1936年旅順生まれ。終戦後朝鮮の収容所に入れられ47年に脱走。帰国後56年に高校を卒業し同62年に千葉大学医学部を卒業。72年以降は千葉県がんセンター婦人科医長であった▼82年4月、学生時代からの念願であった僻地医療を志し、千葉県木更津市から無医村であった岩手県田野畑村に国保診療所長、保健センター長として、奥さん・息子さん3人計5人で移住した▼その時奥さんはすでに骨髄異形成症候群を発病していた。7年後の89年1月13日夜、春代さんは同病で亡くなる。45歳だった。夫妻を慕う田野畑村民200人が昼夜マイクロバス7台を飛ばし木更津に駆けつけ15日の葬儀に参列した▼同医師は以後も12年間単身僻地医療に携わった。奥さんは82年正月、下見に同村を訪れた時「遠いのがただただ悲しい」と歎いた。だが、引っ越しの際には「田野畑は花が少ない」とトラックの荷台半分に梅の苗を積み、村を花一杯にした。冒頭の同医師著書名の由縁である。

◇弁護士による
法律相談
◇申込
電話で予約して下さい。
◇電話
364-3222
◇相談日
3月13日（木）
3月25日（火）
◇時間
午後1:30～
◇場所
旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

◇議員による
暮しの相談
電話
藤原益栄議員
368-6623
070-6497-6623
佐藤恵子議員
367-0182
090-2027-9884
柳原きよし議員
368-1883
090-2605-4984
戸津川はるみ議員
090-7528-2075